

令和元年度
(第4期事業年度)

監事監査報告

独立行政法人自動車技術総合機構


令和元事業年度監事監査報告

令和2年6月30日

独立行政法人自動車技術総合機構

理事長 柳川 久治 殿

独立行政法人自動車技術総合機構

監事 古川 一美 

監事 中村 友理香 

独立行政法人通則法（以下「通則法」という。）第19条第4項及び同法第38条第2項の規定に基づき、独立行政法人自動車技術総合機構（以下「自動車機構」という。）の令和元事業年度（平成31年4月1日～令和2年3月31日）の業務、事業報告書、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、利益の処分に関する書類（案）、キャッシュ・フロー計算書、行政コスト計算書、純資産変動計算書及びこれらの附属明細書）及び決算報告書について監査を実施し、その方法及び結果を取りまとめたので、以下のとおり報告する。

I 監査の方法及びその内容

各監事は、監査計画に基づき、理事長、理事、内部監査部門、その他職員（以下「役職員等」という。）と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議（内部統制委員会、検査業務適正化推進本部会合、交通安全環境研究所所議等）に出席し、役職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、出先機関である交通安全環境研究所、地方検査部・事務所（東北検査部等11箇所）において業務、財産の状況及び国土交通大臣に提出する書類を調査した。また、役員（監事を除く。以下「役員」という。）の職務の執行が通則法、個別法又は他の法令に適合することを確保するための体制その他法人の業務の適正を確保するための体制（以下「内部統制システム」という。）について、役職員等からその整備・運用状況等について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求めた。

さらに、当該事業年度に係る財務諸表及び決算報告書（以下「財務諸表等」という。）について検証するに当たっては、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適切な監査を実施しているかを監視及び検討するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を受けた。また、会計監査人から会社計算規則第131条で定める「会計監査人の職務の遂行に関する事項」と同様の事項の通知を受け、必要に応じて説明を求めた。

以上の方法に基づき、自動車機構の当該事業年度に係る業務、事業報告書及び財務諸表等の監査を行った。

II 監査の結果

1. 本部及び交通安全環境研究所並びに地方検査部・事務所の監査結果

総体的には、概ね適正に業務運営が図られ、かつ、会計処理が適正に執行されていたものと認められたが、一部において主に以下のような改善又は検討を必要とする事項が認められた。

(1) 本部

- ① 職員に貸与されているパソコンの使用において、「独立行政法人自動車技術総合機構情報セキュリティポリシー」に定められた管理が適切に行われていない事例が認められた。

(2) 交通安全環境研究所

- ① 職員の就業状況について、勤務時間の管理は「人事給与・勤務報告申請システム」により行われているが、同システムへの日々の入力が遅れている等、入力作業が適切に行われていない事例が認められた。
- ② 職員に貸与されているパソコンの使用において、「独立行政法人自動車技術総合機構情報セキュリティポリシー」に定められた管理が適切に行われていない事例が認められた。

(3) 地方検査部・事務所

- ① 契約関係帳票類において、予定価格調書における価格根拠が明確でない事例や、仕様書が適切に作成されていない事例が認められた。
- ② 職員に貸与されているパソコン等の使用において、「独立行政法人自動車技術総合機構情報セキュリティポリシー」に定められた管理が適切に行われていない事例が認められた。
- ③ 現車審査作業について、外観検査時等における職員による車両操作など安全作業マニュアルが一部徹底されていない事例が認められた。
- ④ 並行輸入自動車、改造自動車等に係る事前審査書面について、届出書

類の一部不備、記載漏れとなっていた事例が認められた。

2. 財務諸表等についての意見

財務諸表は、独立行政法人会計基準並びに一般に公正妥当と認められる会計基準に準拠して作成されており、財政状態、運営状況、キャッシュ・フローの状況及び行政コストの状況を適正に表示しているものと認められる。

決算報告書は、予算の区分に従って決算の状況を正しく示していると認められる。

また、会計監査人太陽有限責任監査法人の監査方法及び結果は、相当であると認められる。

3. 事業報告書についての意見

事業報告書は、法令等に従い、法人の状況を正しく示しているものと認められる。

Ⅲ 自動車機構の業務が、法令等に従って適正に実施されているかどうか及び中期目標の着実な達成に向け効果的かつ効率的に実施されているかどうかについての意見

国からの依頼を受けて、自動車が保安基準に適合するかどうかの審査業務を審査事務規程に基づいて適切に実施するとともに、運輸技術のうち陸上運送及び航空運送に係るものに関する試験、調査、研究及び開発等を実践している。また、国の施策に対して自動車機構が一体となって貢献を行っていくため、自動車機構内に設置した技術戦略本部において統合による効果の効率的な創出とその効果の最大限発揮に向けて取り組んでいる。

令和元年度においては、OBD検査の実施に向けた準備を進めるため令和元年4月に本部へ設置したOBD検査業務準備室と交通安全環境研究所が連携・協力し、関係者からなるプロジェクトチームを立ち上げ、試作版アプリの作成や実車を用いた実証実験による検証等を実施し、OBD検査の確実な実施に向けた検討を本格的に進めている。また、既存の検査の効率化や事故防止の観点から、検査部門と研究部門が連携して、OBDを活用したガソリン車の排出ガス検査の代替手法や、PN測定機を用いたディーゼル車の排出ガス検査の導入の検討等に取り組んでいる。

以上の状況から、自動車機構の業務全般的には中期目標の着実な達成に向けて、令和元年度計画を効果的かつ効率的に実施していると認められる。

一方、平成28年度から29年度にかけて判明した検査機器判定値の設定不備問題について、国土交通省、自動車機構、校正機関ならびに検査機器製

作事業者等により構築した検査機器判定値を厳格に管理する体制が有効に機能し始めていた矢先に、一部職員や校正機関の意識の希薄さから同種事案が発生したことは遺憾である。本部と地方検査部等が連携し複層的なチェック体制の強化など、更なる再発防止対策を講じているところであるが、本問題については、厳正かつ公正な自動車の審査業務を担う法人として「検査機器の保守・管理に対する意識醸成」、「再発防止の取組の持続と定着」がより一層重要となることから、今後も主要事項として重点的に監視することとする。

IV 自動車機構の役員の職務の執行が法令等に適合することを確保するための体制その他自動車機構の業務の適正を確保するための体制の整備及び運用についての意見

内部統制システムについては、自動車機構の業務が抱える課題の検討、必要な改善・見直しを行いながら地方検査部・事務所に展開し、厳正かつ公正な業務の効果的、効率的な運営に取り組んでいるとともに、当該取組について、適時、内部監査部門が確認を行い、その結果を役職員に共有・展開して対応していることから、内部統制システムがその運用面において概ね有効に機能していると認められる。

また、内部統制における各組織の役割と責任について役職員の理解を深めるためのセミナーを継続的に開催し、組織への内部統制の浸透に取り組んでいることは評価できる。

今後においても、自動車機構の業務目標を明確に示し、各組織において役割と責任を果たすことによってこれまでの取組が形骸化することがないように引き続き取り組むとともに、不適切事案はもとより業務実施の障害となるリスクの管理等をはじめとする内部統制に関する不断の見直しにより、更なる体制の充実・強化に繋がることを期待したい。

V 自動車機構の役員の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令等に違反する重大な事実があったときは、その事実について

該当する事項は認められない。

VI 監査のため必要な調査ができなかったときは、その旨及びその理由

監査の実施において関係者の積極的な協力が得られており、該当事項はない。

Ⅶ 独立行政法人改革等に関する基本的な方針等過去の閣議決定において定められた監査事項についての意見

独立行政法人見直しに関する閣議決定事項への対応について、役職員の給与水準は国に準拠した基準であり、ラスパイレス指数も100以下となっており適正水準で運用されていると認められる。また、入札・契約の合理化については調達合理化計画に基づいて透明性及び外部性を確保し取り組んでいると認められる。

－ 以 上 －